

理事会後記者会見

- 日時 2023年12月21日(水) 16:00~17:00
 - 場所 オンライン
 - 出席 JVL 大河正明バイスチェアマン
 - メディア 24社 29名
 - 議題
 1. 2024-25 新クラブライセンス申請状況について
 2. V.LEAGUE REBORN 進捗状況について
-

大河バイスチェアマンより、新クラブライセンス申請状況ならびに V.LEAGUE REBORN 進捗状況について報告し、メディアからの質問を受け付けた。その内容は、下記の通りであった。

<新クラブライセンス申請状況>

Q. 申請チーム数についての手応えをどのように感じているか。

A. 妥当な数だと感じている。少し危惧はしていたが、SV の条件をクリアできるように各チームが動き出している事を感じ取れ嬉しかった。正直、V2 からもう 1-2 チーム申請があるかとも思ったが堅実に考えられていた。

Q. S-V.LEAGUE は 44 試合あるが会場確保は大丈夫なのか。

A. 条件に沿って各チームがアリーナ確保に動いている。大阪はチーム数が多い事とアリーナの改修があるので厳しいかもしれないが、JVL も行政とコミュニケーションを取りながら会場確保に知恵を貸していきたいと考えている。また、2026 年から 28 年ぐらいにかけて B リーグの素晴らしいアリーナができてきて、将来的に良いアリーナが日本にたくさんできるというチャンスがあると感じている。

Q. 今シーズンは新リーグへの移行期最後のシーズンだが、新リーグの認知を上げる為にもっと働きかけた方がよいのでは。

A. B リーグも J リーグも立ち上げの時には軍資金があり、広報・プロモーションやブランディングに投資をしている。V リーグ自体が今財務上非常に厳しい状況であるが、創業する企業が資金をファンディングして投資していくのと同様の事をしていかなければならない。これから反転攻勢をしていく計画でいる。

Q. SV ではチーム数を偶数に揃えるとの事だが、仮に奇数が残った場合、審査の最後はどのように評価して決めるのか。

A. 集客、入場者数、売り上げ見込み、チーム力等を勘案して、クラブ代表理事を除く有識者理事の中でチームを総体的に評価して総合的に判断する。

Q. 上記の判断により SV から外れたチームの扱いはどうなるのか。

A. SV 準加盟クラブの枠に入っただけ。翌年以降、他の SV 準加盟クラブを含めて複数クラブで SV にいけると判断になった時に、MAX16 チームになるまで SV に上がっていく。

Q. SV ライセンス交付クラブの発表は 5 月とあるが、3 月理事会後に最初の審査通過クラブを公表する考えはあるか。

A. 3 月と 4 月の理事会にて 2 段階で SV、V 全てのライセンス交付クラブを決定する。3 月の理事会後に男子女子それぞれ SV ライセンスの交付が決定したクラブを発表し、4 月の理事会後に残るクラブを発表する。5 月にはならず、3 月 4 月の理事会後の会見で発表させていただく予定。

Q. SV に対して男子 10 クラブは積極的だと感じたとおっしゃっていたが、具体的にそう感じられたチームの話や出来事が何かあったのか。

A. 東京 GB、ヴォレアス等のプロクラブや WD 名古屋、パナソニックはチケット販売や演出等どうやって事業収入を上げていくかという事に対して B リーグのトップチームに近い発想になっている。それに引っ張られるように、東レ等も積極的にファンサービスを行っているのを感じる。それぞれのチームがうまく切磋琢磨して成功事例を重ねていけば、もともとポテンシャルがあって人気の高いバレーボールという競技なので、S-V.LEAGUE の特に男子の方は、B リーグの B1 に伍していける感じがある。決算発表の数字を見ても B1 と V リーグのトップチームは近い金額を投資にかけている。まずは男子に S-V.LEAGUE という名前を輝かせる存在として引っ張ってもらい、女子とともに世界観を創り上げていく。

<V.LEAGUE REBORN 進捗状況について>

Q. 外国籍のオンザコートルールについて、2027-28 シーズンから半数を外国籍選手にしていく理由は？各チームの意見は共通しているのか。

A. 2030 年に世界最高峰のリーグを目指す上で、なるべく多くの外国籍選手と対戦し、日常を世界基準に上げていきたいと考えている。日本人選手が出る機会が多い少ないという話と、日頃から世界の名だたる選手と伍して戦えることが代表の強化に繋がるという 2 つの意見が必ず出てくるが、少し舵を切った形で外国籍枠を 3 名にさせていただくということで合意した。

何度か議論はしたが、日本人選手の機会をあらかじめ確保するというよりは、外国籍選手がいる中でも日本人選手が割って入れる実力を兼ね備えないと、我々が目指すところへは行けない。大きな反対意見はチームからはなかった。

Q. 今回のオンザコートルールについて、代表強化の観点から JVA とコミュニケーションは取ったか。もしあればどんな議論内容だったか。

A. 我々の理事会に JVA 代表という形で理事として入っていただいております、何度か REBORN の話をしに行く中で、我々の意図や主旨を理解していただいた上での決定と考えている。

Q. JVA 強化側から具体的にどのような意見があったか。

A. 強化側とは直接話をしていないので、今後機会を設けていきたい。

Q. 現行 V リーグでは男子は中国籍選手が多く活躍されているが、S-V.LEAGUE のアジア枠の対象に中国籍が入っていない理由は？

A. 女子は現状中国籍がアジア枠の対象ではなく、男女で統一した方が良いという議論があった。中国籍選手は身長が高く身体能力も高いので、欧米と同じ枠の扱いにしたいという事が一点。もう一点は、フィリピン、タイ、チャイニーズタイペイなどの多くの選手が V リーグで活躍しており、バレーボールの人気もある国と提携しながら事業展開を進めていきたい。この 2 つの意思で決定した。

Q. フィリピン、タイなど日本バレーに注目している国の場合は、今後アジア提携国枠にしてフリーにしていくという考えはあるか。

A. 日常から世界基準にしていくという中で、例えばタイの選手がたくさんいるという事も全然構わないと思っている。日本はお金を払ってテレビを見る文化があまりないが、海外にはそういった文化もあるので、そういった事も含めて提携していけると面白いと思う。

Q. オンザコートルールで参考にした世界のリーグはあるか。

A. 特に参考にした国はない。半分ぐらいが外国籍になっても日本人が生き残ってのし上がれるぐらいの形にならないと、真の代表の強化にはならないだろうと思う。

Q. サントリーが世界クラブ選手権で 3 位になった事の意義をどう捉えているか。今後の新リーグ立ち上げに向けてどう活かせるか。

A. 素晴らしい快挙だと思っている。しかしメディアの取り扱いが非常に少ないことは改善の余地がある。世界最高峰のリーグになるという事は、世界クラブ選手権で優勝するチームを作るというのも一つの象徴で必要な事。S-V.LEAGUE に活かしていくには露出を増やし、リーグだけでなくクラブや選手自身が SNS 等で発信する事で盛り上げていかなければならない。

Q. リーグとして今後どのくらいのスポンサー規模を考えているのか。

A. スポンサーと放送配信権で 10 億円以上は絶対に取りたい。その他全体を足して 20 億円くらいの規模感を目指したい。そのために V リーグにどんな強みがあるのかを訴求していかなければならない。

Q. 配信は委託するのか、JVL でやるのか。どういった形態をとる予定か。

A. 配信サービスはバスケットボールやサッカーもそうだが、基本的には独占で売り切りの販売をしている。V リーグもそれをベースに考えながら、一方で自分たちの媒体を通じて発信して課金していくオウンドメディアと両方にチャレンジできるのが理想。

以上